

## 山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	山口大学医学部附属病院における消化管狭窄に対する内視鏡的治療実態把握のための調査研究		
② 実施予定期間	実施許可日から 2027年3月31日		
③ 対象患者	対象期間中に当院で内視鏡検査を行い、消化管狭窄が確認された患者さん		
④ 対象期間	2008年4月1日 から 2026年3月31日		
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院		
⑥ 対象診療科	第一内科		
⑦ 研究責任者	氏名	五嶋敦史	所属 第一内科
⑧ 使用する試料・情報等	日常診療において得られた情報のうち、患者さんの背景（年齢、性別、全身状態、病歴など）、臨床データ（血液検査結果や画像検査所見、病理所見、治療による偶発症など）を収集します。		
⑨ 研究の概要	<p>消化管狭窄とは、何らかの原因で食道や胃や腸のような食物の消化、吸収に関わる臓器の内腔が狭くなってしまう病気です。消化管に腫瘍ができたり、外科手術や内視鏡手術、放射線治療などを行った後に発生することがあります。狭窄の程度によっては、食事や排便が困難となるため、生活の質に直結するような病気です。消化管狭窄に対する治療は、その原因や部位、程度によって様々ですが、当科では内視鏡的治療としてバルーン拡張術、ステロイド局注、金属ステント留置、イレウス管留置などが行われてきました。また近年では radial incision cutting と呼ばれる狭窄部の瘢痕組織を電気メスで切除し、狭窄を解除する方法も考案され、実際の臨床現場において普及してきています。消化管狭窄に対する内視鏡治療の成績や安全性、予後について経時的に把握することは重要であると考えます。当科において消化管狭窄に対して内視鏡的治療がなされた患者さんの情報を収集し、今後のよりよい治療法の選択や課題の抽出等に役立てます。</p>		
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2022年 8 月 23 日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。		
⑮ 研究の資金源	第一内科の研究費（奨学寄附金）を用います。		

⑩ 利益相反	ありません。			
⑪ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 第一内科 五嶋敦史			
	電話	0836-22-2241	FAX	0836-22-2240